

## メキシコ政治情勢（10月）

### 〈概要〉

#### 【内政】

- ・ 5日、マルガリータ・サバラ元連邦下院議員（カルデロン前大統領夫人）が国民行動党（PAN）を離党した。
- ・ 14日、2018年大統領選の独立系候補の申請登録が締め切られた。
- ・ 16日、ラウル・セルバンテス連邦検察庁（PGR）長官が辞任した。
- ・ 21日、PGR 選挙対策専門検察局（FEPADE）のニエト局長が PGR の内規違反を理由に解任された。

#### 【外交】

- ・ 10日、ビデガライ外相が連邦上院議会において、メキシコの外交方針に関する演説を実施した。
- ・ 12日～13日、トルドー加首相がメキシコを公式訪問した。
- ・ 16日～19日、ビデガライ外相は、バチカン、イタリア、英国を訪問した。
- ・ 25日、ペニャ・ニエト大統領は第4回カリコムサミットに出席するためベリーズを訪問した。

### 〈内政〉

#### 1. マルガリータ・サバラ元連邦下院議員の国民行動党（PAN）離党

5日、マルガリータ・サバラ元連邦下院議員（カルデロン前大統領夫人）が国民行動党（PAN）を離党した。同氏は2018年大統領選に独立系候補として出馬を目指す見通しとなった。

#### 2. 2018年大統領選の独立系候補申請登録締め切り

(1) 14日、2018年大統領選の独立系候補の申請登録が締め切られた。全国選挙機関（INE）に対し、86名が申請（男性79名、女性7名）を行い、このうち、40名が INE によって申請を受理された。

(2) INE によって申請を受理された候補者は、独立系候補として正式に出馬するために、2018年2月12日までに、有権者リストの1%（866,593人）の署名を少なくとも17州（各州それぞれから約86万の署名ではなく、合計で約86万の署名という意味）から集める必要がある。

(3) 主な候補者は、サバラ元連邦下院議員、ロドリゲス・ヌエボ・レオン州知事、サパティスタ民族解放軍（EZLN）の支持を得るパトリシオ全国先住民会議（CNI）広報官、ピータル上院議員（元民主革命党（PRD）所属）。

#### 3. セルバンテス連邦検察庁（PGR）の辞任

16日、ラウル・セルバンテス連邦検察庁（PGR）長官が辞任した。新しい長官が就任

するまでの期間、アルベルト・エリアス・ベルトラン PGR 法務・国際担当副長官が暫定長官を務める。

#### 4. ニエト PGR 選挙対策専門検察局 (FEPADE) 局長の解任

21日、PGR 選挙対策専門検察局 (FEPADE) のニエト局長が PGR の内規違反を理由に解任された。同局長は、下記5のロソーヤ前メキシコ石油公社 (PEMEX) 総裁と伯オデブレヒト社及びその関連会社 Braskem 社の癒着疑惑の捜査を行っており、今回の同局長の解任人事は、本件捜査を妨害するための不当な措置であるとの批判が野党から上がっている。

#### 5. 伯オデブレヒト社及びその関連会社 Braskem 社と制度的革命党 (PRI) の癒着疑惑

23日、当国「レフォルマ」紙 (全国紙) は、伯オデブレヒト社及びその関連会社 (石油化学関連) の Braskem 社と与党制度的革命党 (PRI) の癒着疑惑を報じた。

##### 【「レフォルマ」紙記事概要】

(1) 伯オデブレヒト社及びその子会社 Braskem 社は、ペニャ・ニエト大統領 (制度的革命党 (PRI)) が大統領に就任する以前より、同大統領と関係を有してきた。市民団体「Mexicanos contra la Corrupcion y la Impunidad (MCCI)」の調査によれば、2010年4月第1週、当時のペニャ・ニエト・メキシコ州知事はブラジルを訪問し、当時オデブレヒト社の CEO を務めていたマルセロ・オデブレヒト氏と会談し、その後、同州知事が2012年大統領選の有力候補として取りざたされていた2011年10月にも、両者はメキシコ州トルーカ市で再び会談した。両者による2度目の会談については、「Lava Jato (ジェット洗浄)」と呼ばれるペトロブラスの贈賄疑惑の捜査で押収された電子メールの記録によって、初めて表に出たものである。

(2) 電子メールの記録によれば、オデブレヒト CEO は2011年10月25日にペニャ・ニエト氏と会談し、その同日に、ベラクルス州ハラッパ市でドゥアルテ・ベラクルス州知事 (当時、PRI 所属。2016年10月、州知事を退職後、グアテマラに逃亡。2017年4月に、公金横領の罪等でグアテマラで身柄を拘束され、その後、メキシコに身柄を引き渡された。) とも会談、また、同日夜には、クアウテモック・カルデナス元大統領候補 (PRD の創設者の一人。1988年、1994年、2000年と3度大統領選に出馬) が主催するイベントに参加した。さらには、前日24日には大統領官邸にて、カルロス・ファディガス Braskem 社代表同席の下、カルデロン大統領 (当時、国民行動党 (PAN)) とも会談している。このようにわずか二日間でオデブレヒト CEO はメキシコの主要政党3党の関係者と会談したことになる。

(3) ペニャ・ニエト次期大統領は、大統領に就任する直前の2012年11月12日にも、ケタロ市でオデブレヒト CEO と再び会談。また、ファディガス Braskem 社代表の証言によれば、ペニャ・ニエト次期大統領は同時期に同代表と、Etileno XXI プロジェクト (ベラクルス州南部コアッツアコアルコス市に建設中の石油化学プラント) について話し合った。同代表は同年11月9日に投資家たちとの会合で、「Etileno XXI プロジェクト

は、カルデロン現大統領のみならず、ペニャ・ニエト次期大統領の100%の支持を得ている」と述べている。

(4) ペニャ・ニエト大統領は大統領就任直後、現在、汚職疑惑でブラジルで取調中のフアディガス氏と会談。右会談には、ロソーヤ・メキシコ石油公社(PEMEX) 総裁も同席した。2013年10月にも、ペニャ・ニエト大統領は、オデブレヒト CEO と大統領官邸にて会談している。

(5) MCCI の報告によれば、Braskem 社は、2012年大統領選の期間、3回にわたり計150万米ドルを Latin America Asia Capital 社に送金している。同社はタックス・ヘイブンであるヴァージン諸島に登録されており、大統領選においてペニャ・ニエト候補陣営の国際担当を務めていたロソーヤ前 PEMEX 総裁と関係のある会社である。Latin America Asia Capital 社への送金は、アンティグアの Meind Bank を通じて2012年5月23日に50万ドル、5月30日に49万ドル、6月8日に51万ドルと行われており、これらの日には、ペニャ・ニエト大統領の大統領選キャンペーンの時期と一致している。

(6) 2010年から2017年にかけてオデブレヒト社メキシコ代表を務めたルイス・アルベルト・デ・メネセス氏(メキシコで指名手配されたのち、ブラジルに逃亡。ブラジルで司法取引に応じ、オデブレヒト社を巡る贈賄疑惑の捜査協力を行っている)が2016年12月に行った証言によれば、同氏は2012年大統領選キャンペーンの開始後、数回にわたってペニャ・ニエト候補陣営の国際担当を務めていたロソーヤ前 PEMEX 総裁と面会し、タックス・ヘイブンであるヴァージン諸島に登録されている Latin America Asia Capital 社及び Zecapan SA 社を通じてロソーヤ氏に400万ドルを送金することで合意した。

## 〈外交〉

### 1. ビデガライ外相の墨外交方針に関する演説

10日、連邦上院議会に招集されたビデガライ外相は、連邦上院議員を前にメキシコ的外交方針に関する演説を質疑応答を含め5時間にわたり実施した。

#### (1) 外交方針における二つの優先事項

複雑且つ日々変化する国際情勢を前に、メキシコは外交方針において、①他国との接触の強化、国際場裡におけるメキシコのプレゼンス強化、外交及び機会の多角化、②米国との交渉を成功させるという二つの優先事項を有している。

#### (2) ラ米地域

(ア) 太平洋同盟は、今日、南北アメリカ大陸の地域統合の基盤として最も成功を収めていることに疑いはない。太平洋同盟は、本年6月末のカリ宣言において、シンガポール、豪、ニュージーランド、加と太平洋同盟間の自由貿易協定の交渉を開始した。

#### (3) ベネズエラ情勢

(ア) 多くの国が民主的秩序及び制度的秩序の破壊とみているベネズエラの現状に対し、メキシコは明確な懸念を示してきた。ベネズエラ情勢に対する我々の取り組みは、外交を通じたものでなければならず、交渉によらない如何なる解決策も拒絶する。メキシコは、

内部又は外部からの軍事的解決は断固として拒絶することを重ねて表明してきている。

(イ) 本年9月17日、メキシコは、ベネズエラ外務省及びベネズエラの反政府勢力の各々から、両者の政治対話プロセスに参加する招待を受けた。これに対し、メキシコは公式に書簡にて同プロセスに参加する意思がある旨回答した。

#### (4) アジア太平洋地域

(ア) アジア太平洋地域との政治、経済関係の強化を模索している。ペニャ・ニエト大統領は、先日(9月4日～5日)開催されたBRICS首脳会議に初めて出席するために中国を訪問した。メキシコはBRICSにおけるメキシコのプレゼンスを維持するとともに、BRICS諸国と円滑な対話を行っていく。

(イ) 本年8月、私(「ビ」外相)は日本を訪問した。アジアにおける優先事項及び機会の一つが、米国を除いたTPPの継続であり、日本によるTPP11のイニシアティブをメキシコは歓迎し、このイニシアティブに誠意と熱意をもって参加する。

(ウ) メキシコは韓国、日本、中国との貿易の拡大を望んでいる。

#### (5) 北米地域

(ア) メキシコにとって北米地域との関係は、経済のみならず、我々国民の日常生活にとっても、根本的かつ戦略的なものであり、NAFTAは北米地域の経済統合を促進する役割を担ってきた。現在、NAFTAの加盟国三カ国、とりわけ、墨米両国は、今後数十年間の共存の関係をどのような形のものとするかを決定する時期にある。

(イ) メキシコにとって米国との関係は根本的なものであるが、米国にとってもメキシコとの関係が根本的なものであることを忘れてはならない。メキシコは、墨米両国に存在する相違を乗り越えるための相互尊重に基づく建設的対話を信頼しており、米新政権との対話を制度化し、今日までに米政権関係者と61回の会談を実施してきている。

(ウ) NAFTAの再交渉に関し、メキシコは、同協定の近代化が三カ国の利益となるWin-Winの合意に達するために建設的な姿勢で挑んでいる。メキシコはNAFTAより大きな存在であり、同協定の再交渉の結果がもたらす異なる状況に対応する準備を行わなければならない。

(エ) メキシコ政府は、墨米国境に関し、両国を更に近づけ、メキシコへの武器の密輸、不法な資金の流入を阻止する安全な国境を作るための国境インフラ計画に対し建設的に取り組んでいる。他方で、メキシコは墨米両国の間に物理的障害を建設する如何なる計画にも参加せず、協力しない。メキシコは、如何なる状況においても、米国領土内に建設される壁の建設費の支払いには一切応じない。

#### (6) 核兵器禁止条約

メキシコは本年トラテロルコ条約50周年記念式典の開催国を務め、数日前には、核兵器禁止条約に署名した。同条約は昨日(10月9日)大統領によって承認手続きのために連邦上院議会に送付された。上院議員の皆様に対し、同条約の検討を早急に行い、承認するようお願いする。

#### (7) 北朝鮮情勢

(上院議員側からの質問に応じる形で) 北朝鮮は、メキシコのアジアにおける同盟国で日

本及び韓国の安全保障に対する脅威となっている。メキシコはこれまでに北朝鮮の核実験、ミサイル発射に関し、17のコミュニケを發出してきたが、コミュニケだけでは充分ではなかった。メキシコは、軍縮・核不拡散に対し明確な責任を有していることから、今般の在メキシコ北朝鮮大使の国外追放の処置は、メキシコの国際場裡におけるこれまでの言動に合致したものである。

#### (8) カタルーニャ州分離独立問題

(上院議員側からの質問に応じる形で) メキシコは、国際法に則り、一方的に独立したカタルーニャ州を承認することはない。

## 2. トルドー加首相の訪墨

12日～13日、トルドー加首相がメキシコを公式訪問した。

### (1) 12日の日程

#### (ア) 国立宮殿における歓迎式典

(a) ペニャ・ニエト大統領は、リベラ大統領夫人とともに、トルドー加首相及び同首相夫人を国立宮殿で迎えた。ペニャ・ニエト大統領は、9月にメキシコで発生した2つの地震(7日に発生したメキシコ南部沖合地震と19日に発生した中央部地震)後に、加国民及び政府がメキシコに対して示した友情に関し、改めて感謝の意を示した。

(b) 両首脳は、カナダによるメキシコへの支援の様子を展示した写真展を視察した。

(c) 両首脳は、8月にカナダのブリティッシュコロンビア州で発生した森林火災の消火活動に参加したメキシコの救援隊と会談した。

#### (イ) NAFTA 再交渉

(a) 両国閣僚を交えた実務協議において、ペニャ・ニエト大統領は、北米地域が最も繁栄し、競争力のある地域で有り続けることを保証するためには、(墨加両国が)協力し続けなければならない旨述べた。

(b) 両首脳は、NAFTA 再交渉の現状について話合い、同協定が加盟三カ国の利益となる合意を形成するために取り組んでいく旨改めて述べた。

#### (ウ) その他の議題

両首脳は会合の中で、中米地域における共同協力、クリーンエネルギーの発達、気候変動対策、環境保護の促進に関する「Mission Innovation」イニシアティブを継続することの重要性等について話し合った。

### (2) トルドー首相の連邦上院議会訪問 (13日)

(ア) トルドー首相は、連邦上院議会を訪問し、特別セッションにおいて演説を行った。同首相は、将来の課題を解決するためには各国は協力する必要があると、強い北米地域は強いメキシコ、強いカナダ、強い米国によって生まれる、三カ国はパートナーである旨述べた。

(イ) また、同首相は、カナダとメキシコの関係は、地理的条件を超えるものであり、両国が今後も常にパートナー及び友人であり続けることを願っている述べ、「カナダ万歳 (Viva Canada)、メキシコ万歳 (Viva Mexico)」と叫び、連邦上院議員たちから喝采を浴

びた。

(ウ) コルデロ連邦上院議長は、トルドー首相に対し、NAFTA に対するトランプ米大統領の姿勢を踏まえ、同協定を維持するためにカナダがメキシコとともに取り組むよう求めた。これに対し、トルドー首相は、加、米、墨三カ国の国民は自由貿易によって利益を得てきたが、自由貿易の更なる発展は、公正な貿易にかかっており、三カ国にとって Win-Win の状況を生み出すためには、最良の規則、賃金、労働条件を達成する必要があると述べた。

### 3. ビデガライ外相のバチカン、イタリア、英国訪問

16日～19日、ビデガライ外相は、バチカン、イタリア、英国を訪問した。

#### (1) バチカン訪問 (16日)

(ア) 16日、国連食糧農業機関 (FAO) 本部で開催された世界食料デーの式典に参加したビデガライ外相は、同式典で演説を行ったローマ法王フランシスコと対談し、メキシコ中央部地震 (9月19日発生) に対し、バチカンからメキシコに送られた連帯の意及び支援に関し、ペニャ・ニエト大統領に代わって謝意を述べた。

(イ) ビデガライ外相は、ピエトロ・パロリン枢機卿 (国務省長官) 及びリチャード・ギャラガー大司教 (外務局長) と会談し、メキシコとバチカンの国交再樹立25周年 (注: 1856年～1873年にかけて行われたファレス大統領による政教分離と教会権力のはく奪を目的とした諸改革の影響により、メキシコとバチカンは国交を断絶。1978年のヨハネ・パウロ2世のメキシコ訪問を契機に交流を促進し、1992年に国交を再樹立した。) 及び教育・文化・司法の分野にかかる協力の合意を策定するための二国間委員会に関して話し合った。

(ウ) また、三者は、深刻化するベネズエラ情勢に関し懸念を表明するとともに、ドミニカ共和国の支援によって開始され、メキシコ、チリ等がオブザーバー国として参加する予定であるマドゥーロ政権と反政府勢力代表による交渉が、ベネズエラ情勢に関し前向きな結果をもたらすことを信じている旨述べた。

#### (2) イタリア訪問 (17日)

(ア) 17日、ビデガライ外相は、アルファーノ伊外相と会談し、9月に発生した地震に対するイタリアからのメキシコへの支援に対し謝意を示した。

(イ) 両外相は、ヨーロッパ、北米及びラ米の情勢について意見交換を行った。

(ウ) ビデガライ外相は、メキシコ・EU間EPAの現代化にかかるイタリアの関与及びイタリアの投資家がメキシコに寄せる信頼について、感謝の意を示した。ビデガライ外相は、経済、貿易、学術等、墨伊関係を更に発展させるために、伊政府と引き続き取り組んでいく墨政府の関心を表明した。

(エ) 両外相は、1991年に創設された墨伊二国間委員会の第5回総会の議長を務めた。両外相は、墨伊両国が民主主義、人権の尊重、自由貿易という価値、及び、国連、G20という国際場裡において同盟国として取り組んでいく意思を両国が有している旨述べた。また、両国間の司法の分野での協力を拡大する旨確認した。

(オ) さらに、両外相は、墨伊二国間の貿易及び投資の増加傾向を今後も維持することの重要性で一致した。イタリアからメキシコへの海外直接投資は、総計21億6410万ドルにのぼり、これらは1998社によるものである。

(カ) 今回の墨伊二国間委員会の成果として、①共同映画作成、②科学・技術協力等にかかる新しい協力合意が署名された。

### (3) 英国訪問(18日～19日)

(ア) 18日、ビデガライ外相は、リアム・フォックス英国国際貿易相と会談し、国際経済の課題及び将来にわたり墨英貿易を継続する上で建設的・提案的かつ緊密な対話を継続することの重要性について述べた。

(イ) 18日、ビデガライ外相は、フィリップ・ハモンド英財務相と会談し、英国のEU離脱においても、経済及び財政の分野に関し、(墨英が) 実りある関係を維持することの重要性について述べた。

(ウ) 18日、ビデガライ外相は、バッキンガム宮殿にてヨーク公爵アンドリュー王子と会談し、墨英両国民に利益をもたらす英国との緊密な関係を維持したいというメキシコ政府の意思を表明した。

### (エ) 墨英外相会談(19日)

(a) 19日、ビデガライ外相は、ポリス・ジョンソン英外相と墨英政策協議メカニズムを行った。両外相は、2016年5月2日にメキシコ市で開催された墨英政策協議メカニズム以降の両国関係の進捗を確認し、2015年のメキシコにおける英国年、英国におけるメキシコ年並びにペニャ・ニエト大統領の英国公式訪問(2015年3月)を契機として、墨英関係が発展しているとの点で一致した。その上で、両外相は、墨英関係を更に発展させるために、政治対話及び相互のハイレベル訪問を引き続き実施していくことの重要性を強調した。

(b) 両外相は、ベネズエラ情勢に関し懸念を表明するとともに、同国が民主主義、人権及び憲法の尊重、民主的制度を平和的に取り戻すために、同国のあらゆる勢力が交渉のための努力を行うよう呼びかけた。

(c) 国際社会の安全に関し、両国は、朝鮮民主主義人民共和国による度重なるミサイル発射及び核実験を非難するとともに、国連安保理によって採択された複数の決議を含む国際的義務を早急且つ完全に履行するよう呼びかけた。

(d) 両外相は、現代的奴隷を根絶する国際的取り組みに貢献する旨表明した。その上で、メキシコは、9月19日、第72回国連総会にて認められた強制労働、現代的奴隷、人身取引の廃止に向けた英国の取り組みを支持する旨確認した。

(e) ジョンソン外相は、野生動物の違法な取引を国際犯罪とする9月11日の国連決議案に、メキシコが共同提案国となったことを歓迎した。また、両外相は、2018年にロンドンで開催予定の野生動物の違法取引に関する国際フォーラムへのメキシコ政府高官の出席を含め、墨英両国が同問題根絶に向けた国際的取り組みに協力していく旨合意した。

(f) 両外相は、墨英二国間の経済関係を更に強化していくことで一致し、2018年メキシコ市で開催予定のハイレベル経済対話及び、2015年3月のペニャ・ニエト大統領の

英国公式訪問の際に初めて開催され、次回が第3回会合となるハイレベル企業家会合に出席する意思を表明した。

#### 4. シヤスネ・セントルシア首相の訪墨

23日～24日、シヤスネ・セントルシア首相がメキシコを公式訪問した。なお、セントルシア首相のメキシコ公式訪問は、メキシコとセントルシアが1979年に外交を樹立してから今回が初めて。

(1) 24日、ペニャ・ニエト大統領とシヤスネ・セントルシア首相は国立宮殿にて首脳会談を行った。同大統領は、同首相の訪墨は、メキシコとセントルシアの友情を確認するとともに、両国がめざしている協力関係の新たな開始を意味するものである旨述べた。

(2) メキシコにとって、セントルシアはカリブ地域における重要なパートナーであり、東カリブ諸国機構(OECS)の本部は同国に置かれている。また、両国は、気候変動、統合的なリスク管理及び災害対応といった国際的重要課題における同盟国である。

(3) 両国閣僚も同席した首脳会談においては、過去5年間で3倍に増加したメキシコとセントルシア二国間の協力及びメキシコとカリブ諸国の協力をどのように促進することができるか等についてが話し合われた。ペニャ・ニエト大統領は、カリブ共同体(CARICOM)の加盟国にとって、10月25日にベリーズで開催される第4回カリコムサミットが、加盟間の関係・協力を強化し、加盟国それぞれの置かれている状況を理解するために対話をし見識を広げるための機会となるであろうと述べた。

(4) 両首脳同席の下、①墨外務省とセントルシア財務・経済成長・雇用創出・外務・公共サービス省との間の共通の利益にかかる協議メカニズムを創設するための了解覚書、②墨社会開発省とセントルシア公正・エンパワーメント・若者発展・スポーツ・文化・地方自治省との間の手工業の分野における協力のための意図表明覚書が署名された。

#### 5. ペニャ・ニエト大統領の第4回カリコムサミット出席

25日、ペニャ・ニエト大統領は第4回カリコムサミットに出席するためベリーズを訪問した。

##### (1) 第4回カリコムサミット

(ア) 25日、ペニャ・ニエト大統領は第4回カリコムサミットに出席した。サミット終了にあたりバロウ・ベリーズ首相、ミッチェル・グレナダ首相、ラロック・カリコム事務局長とともに行った共同記者会見において、同大統領は今回のサミットにおいて、最近に発生した複数のハリケーンによって深刻な被害を受けた国々に対し、迅速な支援を行うことが合意された旨述べた。

(イ) ペニャ・ニエト大統領は、今回のサミットに出席した国々は、自然災害の問題が今後も継続し、今後、より深刻化する可能性があるという認識を明確なものとしており、今回のサミットで話し合われたメキシコとカリコムによる「統合的なリスク管理及び災害対応に関する戦略」が重要となる旨述べた。同大統領は、同戦略はカリブ地域が自然災害に対する備えを向上させ、自然災害からのより力強い復興を可能とする様々な方法を共有す

ることであることを説明した。さらに同大統領は、かかる分野に対するメキシコの責任を示すために、カリブ開発銀行に対し、1400万ドルを拠出した旨述べた。

(ウ) ペニャ・ニエト大統領は、カリブ諸国が国際機関等の資金にアクセスすることが難しい現状等に鑑み、メキシコとカリコムとの協力のメカニズムを再設計することで合意した旨述べた。

(エ) ペニャ・ニエト大統領は、今般のサミットにおいて、第二言語としてのスペイン語教育、統計、情報技術、通信、金融包摂、農業、保健の分野での協力を引き続き促進するための共同宣言を採択した旨述べた。

(2) バロウ・ベリーズ首相との首脳会談

(ア) 25日、第4回カリコムサミットに出席するため初めてベリーズを訪問したペニャ・ニエト大統領は、バロウ・ベリーズ首相と会談し、墨ベリーズ二国間及び地域の課題について話し合った。同大統領は、墨・ベリーズ間の継続的な政治対話及び国際場裡における両国の立場の一致に見られるとおりメキシコにとってベリーズが重要である旨改めて述べた。

(イ) 両首脳は、193kmにわたる両国国境の重要性を確認し、両国の国境樹立35周年に祝意を述べた。

(ウ) ペニャ・ニエト大統領は、ベリーズ市のマリオン・ジョーンズ競技場にメキシコ・スポーツセンターを建設する計画、2校目となるメキシコ学校の建設、メキシコ技術中学校で学ぶベリーズの学生への奨学金、ベリーズにおけるスペイン語教育プロジェクトの実施などを通じて、教育・文化にかかる分野でのベリーズとの協力を引き続き強化していきたいと述べた。これに対し、バロウ首相は、英語を学ぶメキシコ人学生への奨学金プログラムを継続することを約束した。

(エ) 両首脳は、2018年第9回墨ベリーズ二国間委員会を開催するために、具体的な日程を調整することで合意した。同委員会に合わせて、技術・科学協力委員会及び教育・文化協力委員会の合同委員会を実施する予定である。